飛騨地域における縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物について

三島　誠

はじめに

本稿では、飛騨地域の縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物を集成し、平面形・柱配置・付属施設などの竪穴建物を構成する要素を確認することにより、時期的・地域的特徴について若干の検討を加えたい。

１　飛騨地域における研究略史

1951 年、大野政雄氏らにより村山遺跡の発掘調査が実施され、縄文時代前期後葉の竪穴建物１軒が確認された。その後も下呂市峰一合遺跡・高山市堂之上遺跡・白川村島中通遺跡・高山市糠塚遺跡・高山市向畑遺跡・下呂市的場遺跡・高山市中切上野遺跡などの発掘調査が実施され、飛騨地域における当該期の竪穴建物例は増加した。また、中切上野遺跡の報告書では、田中彰氏が中切上野遺跡の柱配置を推定できる好例として、ＳＢ４・７の５本柱の配置を挙げ、当該期における竪穴建物の様相が徐々に捉えられてきた。

飛騨地域における当該期の竪穴建物の基礎的な集成[1)]は岩田崇氏・大石崇史氏によって行われた。この集成によって、竪穴建物検出例も飛騨地域の各地に分布すること、竪穴建物の平面形は円形を基調とし楕円形・不整円形がみられること、柱穴配置は竪穴堀方に沿って環状に配置されるものや不規則に配置されるものが多いこと、屋内施設は地床炉が多く、貯蔵穴と考えられる土坑の検出される例があることなど、当該期の竪穴建物の特徴や構成要素が整理された。竪穴建物の変遷観については、大石氏が竪穴建物の平面形について、前期前半では方形を基調とするのに対し、前期後半では円形が基調となり大きな変化がみられることを指摘した[2)]。一方、長田友也氏は東海地域の竪穴建物を概観する中で、的場遺跡において方形・隅丸方形プランのものと、円形・楕円形のものが混在し、この状況は竪穴建物に関する東西の情報が入り混じった様相であると指摘した[3)]。また、岩田氏は不規則かつ密集する柱配置について、竪穴建物の建て替え・拡張による影響を示唆した[4)]。

これらの集成や分析から、飛騨地域の縄文時代前期前半の竪穴建物の特徴や構成要素を整理すると、以下のことが指摘されている。

①竪穴建物の平面形が前期前半では方形を基調とするのに対し、前期後半では円形が基調となり、大きな変化がみられる。的場遺跡においては方形・隅丸方形プランのものと、円形・楕円形のものが混在する。

②柱穴配置は竪穴掘方に沿って環状に配置されるものや不規則に配置されるものが多い。中切上野遺跡の柱配置は５本柱の可能性がある。

③炉は地床炉が多く、貯蔵穴と考えられる土坑の検出例がある。

④竪穴建物の建て替え・拡張により、結果として密集した柱配置のように見えている可能性がある。

これらのことを踏まえると、前期後半の竪穴建物の平面形は円形を基調とし、柱穴が環状に配置さ

れるものがあることから、同心円及び放射線を遺構に重ねて竪穴建物の平面形や柱穴・炉・貯蔵穴の配置を確認する手法が有効であると考えられる[5]。また、的場遺跡や中切上野遺跡のように遺跡毎に建物の平面形や柱配置が異なることが想定されるため、遺跡毎に竪穴建物の特徴を理解した上で飛騨地域の時期的な変遷・地域的特徴を捉えた方が有効であると考えられる。

２　集成方法と資料の概要

飛騨地域における縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物は、12 遺跡 67 軒である。岩田・大石両氏により基礎的な集成がされ[6]、岩田氏により資料が追加された[7]。本稿では、新たに下呂市下切遺跡の４軒と高山市八日町森ノ木遺跡の３軒を追加した（表１・２）。表中の竪穴建物の規模・壁柱穴・竪穴掘方外ピット・炉・竪穴内土坑に関しては、原則として文献の記載に基づいたが、竪穴建物の平面形・主柱穴配置については、平面図に基づき、一部変更した。また、当該期の竪穴建物は地床炉がほぼ中央に配置されており、入口施設が明確でないものが多い。このため、建物の入口は南方向を基本としたが、傾斜地の遺跡については傾斜も考慮して決定した。図２・３で掲載した平面図では下部を入口と想定して配置した。

集成した竪穴建物の特徴や構成要素は、以下の手順で確認作業を行った。はじめに竪穴建物の平面図を 100 分の１に揃え、同心円を竪穴建物プランの上端又は下端に重ねて平面形を確認した。次に同心円の中心はずら

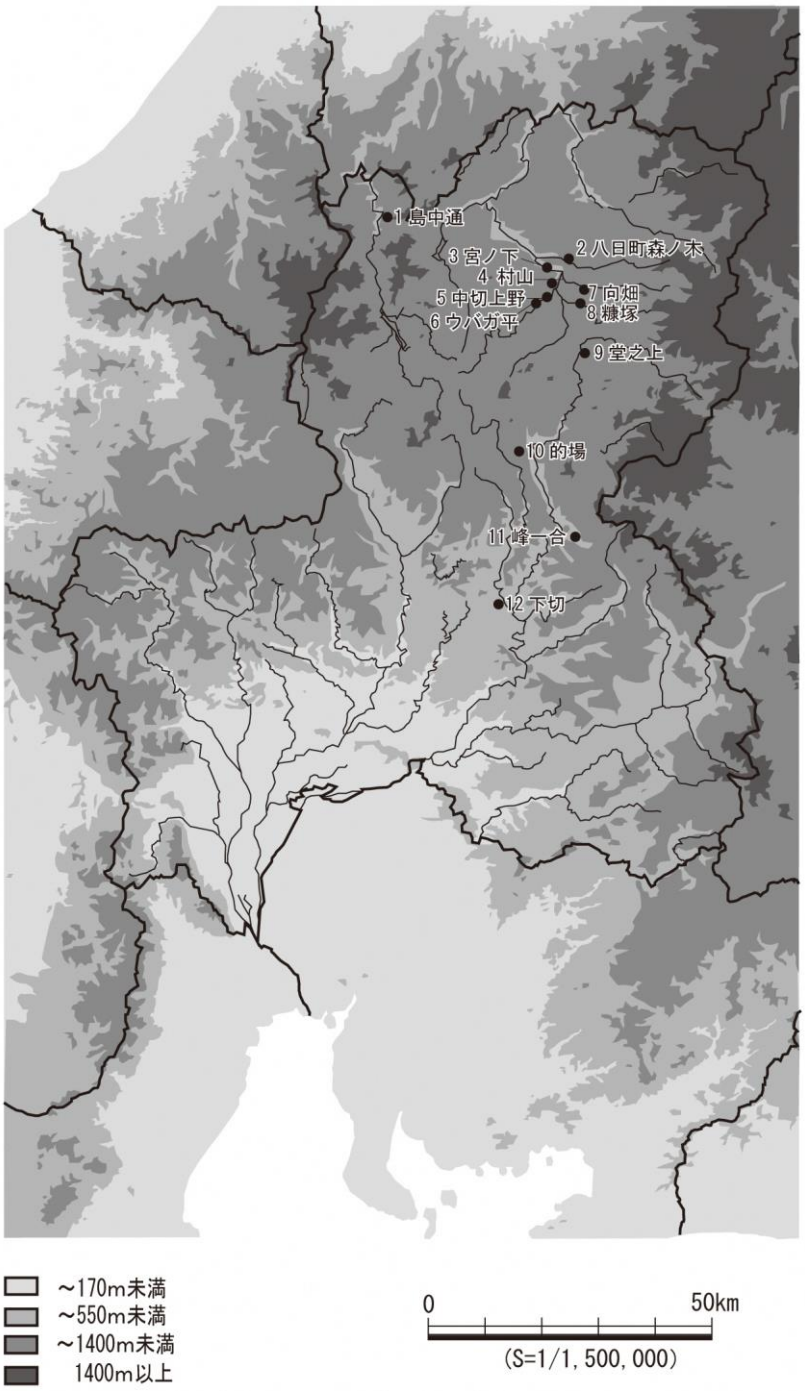

図１　飛騨地域の縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物検出遺跡分布

さずに同心円を小さくし、柱配置を確認した。最後に線を放射状に割り付け、炉・貯蔵穴と考えられる土坑の配置を確認した。

集成の結果、大石氏が指摘するように、竪穴建物の平面形は前期中葉では６例中１例が円形（その他は方形２、不整方形２、不明１）であったものが、前期後葉になると 61 例中 38 例あり、円形プラン（不整円形・楕円形を含む）の割合が多くなることが分かった。また、柱配置については不明のものが多いが、柱配置を確認できたものでは同心円上に並ぶものが 36 例中 31 例あり、多いことが分かった。付属施設については中央に地床炉を配置する例が多く、その側に貯蔵穴と考えらえる土坑が伴うものがあることが分かった。

３　飛騨地域における縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物（図２・３）

遺構の重複が少なく、竪穴建物の平面形や柱配置が確認できる資料を中心に、遺跡毎の竪穴建物の平面形や柱穴や付属施設の配置を確認した上で、時期ごとの状況について検討する。

（１）堂之上遺跡（図２）

堂之上遺跡では羽島下層Ⅱ式併行段階[8)]の竪穴建物６軒、前期後葉の竪穴建物３軒が検出されている。羽島下層Ⅱ式併行段階の竪穴建物は、平面形が方形のものが４軒、円形のものが１軒、不明１軒である。18 号住居址は平面形が方形のもので、主柱穴は同心円上に４基配置され、竪穴隅部と柱穴は放射線上にのる。壁際溝は巡るが、西側中央の一部が途切れる。途切れる場所の小ピットは、入口施設に関係する柱穴の可能性がある。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の北側に位置する。17 号住居址は平面形が円形のものである。主柱穴は１基で、ほぼ建物の中央、炉に接する位置に配置される。壁際溝は全周する。報告者は柱配置から考えても方形の建物と上屋の構造に差があり、機能上の差があることを推定している。

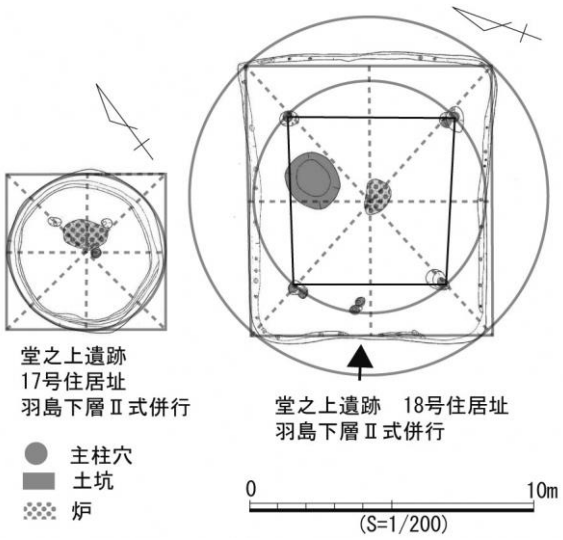

図２　飛騨地域の縄文時代前期中葉の竪穴建物

（２）村山遺跡（図３）

竪穴建物は１軒検出されている。竪穴建物の平面形は、奥壁部分がやや直線的になるため不整円形になる。主柱穴は同心円上に５基配置される。奥壁がやや直線的になる部分にあわせて奥壁部分の柱穴が中央寄りになっており、これを合わせると主柱穴は６基と考えられる。ほぼ建物の中央の炉に接する位置に主柱穴と同じような深さの柱穴が１基配置されており、堂之上遺跡 17 号住居址と同様に上屋の構造に関係する柱穴の可能性がある。また、竪穴外に斜めに掘り込まれた小柱穴が８基あり、垂木穴の可能性がある。南壁の上端が柱間１つ分斜めに崩れていることから、この部分（図１の村山遺跡竪穴建物の矢印）が入口であると報告者は推定している。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の西側に位置する。

（３）島中通遺跡（図３）

竪穴建物は２軒検出されている。竪穴建物の平面形はいずれも円形であり、主柱穴は同心円上に６基配置される。ＳＢ２は、建物の中央の炉に接する位置に主柱穴と同じような深さの柱穴が１基配置されており、村山遺跡と同様に上屋の構造に関係する柱穴の可能性がある。また、竪穴外に小柱穴が巡る。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の北側に位置する。

（４）中切上野遺跡（図３）

竪穴建物は 15 軒検出されている。竪穴建物は傾斜地に立地するため、建物床面の下方部分が消失する。平面形は不整形になる場合も多いが、円形を基調とする。ＳＢ10 の平面形は奥壁部分がやや直線的になるため不整円形になる。主柱穴は同心円上に４基配置される。炉の東側にある柱穴を合わせると柱配置は５本柱となる。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の南西側に位置する。ＳＢ３・７・９・13 の平面形は円形である。主柱穴は同心円上に配置され、ＳＢ９・13 は４本柱、ＳＢ３・７は５本柱と考えられる。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の南及び南西側に位置する。

（５）峰一合遺跡（図３）

竪穴建物は４軒検出されている。竪穴建物の平面形は円形を基調とするが、方形のものも１軒ある。４号住居址は平面形が方形のものである。主柱穴は同心円上に４基配置され、竪穴隅部と柱穴は放射線上にのる。炉や貯蔵穴と考えられる土坑などの付属施設はなく、竪穴外に小柱穴が巡る。３号住居址の平面形は円形であり、主柱穴は同心円上に５基もしくは６基配置される。建物の中央の炉に接する位置に主柱穴と同じような深さの柱穴が１基配置されており、村山遺跡竪穴住居跡・島中通遺跡ＳＢ２と同様に上屋の構造に関係する柱穴の可能性がある。また、竪穴外に小柱穴が巡る。付属施設は地床炉があり、建物の中央に位置する。

（６）的場遺跡（図３）

竪穴建物は 19 軒検出されている。遺構の重複が激しく、竪穴建物の平面形・主柱穴の配置を決めづらいものが多い。22 号住居址は入口施設がやや直線的になるため不整円形になる。柱配置は不明であるが壁際に比較的大きい柱穴が並ぶ。また、竪穴外に小柱穴が巡る。付属施設は地床炉があり、建物の中央に位置する。中央に地床炉がある。21 号住居址は円形を基調とするが入口施設がやや突き出る形状になる。柱配置は不明であるが、北西から東、南にかけて同心円状に巡る。また、南西から東にかけて竪穴外に小柱穴が巡る。付属施設は地床炉があり、建物の中央に位置する。

４　時期毎の状況

ここでは、時期別に概観する。

前期中葉段階の竪穴建物は堂之上遺跡の６軒のみである。１遺跡のみで竪穴建物数も少ないが、平面形が方形で４本柱配置のものと、平面形が円形で中央に１本柱配置されるものがある。

前期後葉になると、竪穴建物の確認例は増加する。図１の糠塚遺跡（８）と堂之上遺跡（９）の間に中央分水嶺（位山分水嶺）があり、北の日本海側へは庄川と神通川に合流する宮川が流れ、南の太

平洋側へは飛騨川が流れるが、図１にあるように飛騨地域では分水嶺の北側（高山盆地）に当該期の遺跡は集中する。水系ごとに見てみると、庄川水系では１遺跡、宮川水系では８遺跡、飛騨川水系では４遺跡それぞれ存在している。

このうち、やや古層の北白川下層Ⅱｂ式からⅡｃ式（古）併行段階の例として、村山遺跡と島中通遺跡の竪穴建物がある。竪穴建物の平面形は円形を基調とするが、村山遺跡のように竪穴建物の平面形は奥壁部分がやや直線的になり不整円形になるものもある。主柱穴の配置は６本柱配置であり、竪穴外には柱穴が巡るものがある。壁際溝が巡る例はなく、入口施設に関係する小柱穴も認められない。付属施設は地床炉と貯蔵穴と考えられる土坑がある。地床炉は建物の中央、貯蔵穴と考えられる土坑は炉の左側に位置する例が多い。

この時期の特徴として、前期中葉段階で平面形は方形が基調であったものが、円形に変化するといえる。また、この時期の建物には、建物のほぼ中央に主柱穴と同じような深さの柱穴が１基配置されており、この柱穴については炉に近接する位置にあるが、上屋の構造に関係する柱穴の可能性がある[9)]。炉は地床炉で、想定した入口からみて炉の左側に貯蔵穴と考えられる土坑を配置する例が多いといえる。

北白川下層Ⅱｃ式併行段階の竪穴建物として、中切上野遺跡と峰一合遺跡の竪穴建物がある。竪穴建物の平面形は円形を基調とするが、前段階の村山遺跡の竪穴建物のように奥壁部分がやや直線的になり不整円形になるものもある（中切上野遺跡ＳＢ10）。主柱穴は４本から６本で、同心円上に配置される例が多い。竪穴外には柱穴が巡るものがある。壁際溝が巡る例はなく、入口施設に関係する小柱穴も認められない。付属施設は、建物の中央に地床炉、貯蔵穴と考えられる土坑が推定した入口からみて炉の左側に配置される例が多い。峰一合遺跡４号住居址のみ方形である。主柱穴は４本で、同心円上に配置される。竪穴外には柱穴列が巡る。壁際溝は巡らない。

この時期の竪穴建物は、平面形や柱穴や炉の配置等、前段階と変化が認められない。また、前段階同様、貯蔵穴と考えられる土坑が配置される例が多い。貯蔵穴と考えられる土坑が配置される例は北陸地域の同時期の竪穴建物に多く、北陸地域と共通する要素と考えられる[10)]。

北白川下層Ⅲ式併行段階の竪穴建物として、的場遺跡の竪穴建物がある。竪穴建物の平面形は円形を基調とするが、入口施設がやや直線的になるものや張り出し部分があり、不整円形になるものがある。主柱穴配置は的場遺跡 21 号住居址のように同心円上にまわる６本以上の柱配置があるが、遺構の重複が激しい遺構が多く、傾向を捉えることができない。付属施設は、中央に地床炉がある例が多い。

５　おわりに

岐阜県飛騨地域における縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物を整理し、その概況を述べた。竪穴建物の平面形については、大石氏が指摘するように前期中葉段階で方形基調であったものが円形基調へと変化するが、柱配置については、前期中葉段階になると、４基から６基配置される例が増えることが分かった。土器型式の変化が竪穴の平面形や柱配置に反映された可能性もあるが、前期中葉の竪穴建物の事例が少ないため、変化した要因は不明である。付属施設については、貯蔵穴と考えられる土坑が推定した入口からみて炉の左側に配置される例が多いことが分かった。

今回は、竪穴建物の平面形・柱配置・付属施設の要素を中心に特徴を捉えようとしたが、柱配置の

細かな分析や他地域との比較等までは十分に行うことができなかった。これらは、今後の資料の増加を待って検討をしたい。なお、本稿の作成にあたっては、岩田崇氏と大石崇史氏に御教示・御協力をいただいた。末筆ながら感謝申し上げたい。

注

１）大石崇史・岩田崇 2003「飛騨の縄文住居」『関西縄文時代の集落と墓地』、六一書房

２）大石崇 2012「飛騨の縄文時代の集落」『下呂ふるさと歴史記念館 40 周年記念シンポジウム　縄文・峰一合遺跡の時代の再検討』、下呂市教育委員会・下呂市ふるさと歴史記念館

３）長田友也 2012「東海地方にける峰一合遺跡」『下呂ふるさと歴史記念館 40 周年記念シンポジウム　縄文・峰一合遺跡の時代の再検討』、下呂市教育委員会・下呂市ふるさと歴史記念館

４）岩田崇 2014「飛騨における縄文時代前期後半に住居跡について」『東海縄文研究会第 11 回研究会（岐阜県）』、東海縄文研究会

５）竪穴建物の平面形態割付基準を用いる方法は長谷川豊氏により実践されている。長谷川氏は、信濃・伊那谷で確認した竪穴建物の平面形態割付基準の分類を用いて、飛騨地域を中心とした縄文時代中期後葉の竪穴建物分析し、竪穴建物の形状、柱穴・炉の配置に共通の基準に従って割りつけた一群があることを指摘している。本稿もこれを参考にして分析を行った。

長谷川豊 1995「飛騨における縄文時代中期後葉の竪穴住居址について」『飛騨と考古学』、飛騨考古学会

６）大石崇史・岩田崇 2003「飛騨の縄文住居」『関西縄文時代の集落と墓地』、六一書房

７）岩田崇 2014「飛騨における縄文時代前期後半に住居跡について」『東海縄文研究会第 11 回研究会（岐阜県）』、東海縄文研究会

８）報告書では神之木式、有尾・黒浜式とあるが、関西地域の土器型式名を用いて、時期の前後関係を確認した。なお、土器型式名の併行関係は小林達雄編 2008『総覧　縄文土器』を参考にした。

９）建物のほぼ中央に柱穴を配置する同時期の例として岐阜県揖斐川町尾元遺跡ＳＢ４がある（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『尾元遺跡』）。

10）町田尚実 2013「富山市平岡遺跡の掘立柱建物についてー縄文時代前期後半の集落の様相ー」『富山考古学研究紀要』第 16 号、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所では、竪穴建物に貯蔵穴を付設する例として富山県立山町吉峰遺跡や富山市平岡遺跡を挙げている。また、町田氏は、平岡遺跡には貯蔵穴群といった集落内の空間区分は見当たらず、個々に貯蔵施設をもつという特徴が、地域色としてみられるように、集落形成においても地域性が存在すると推定している。

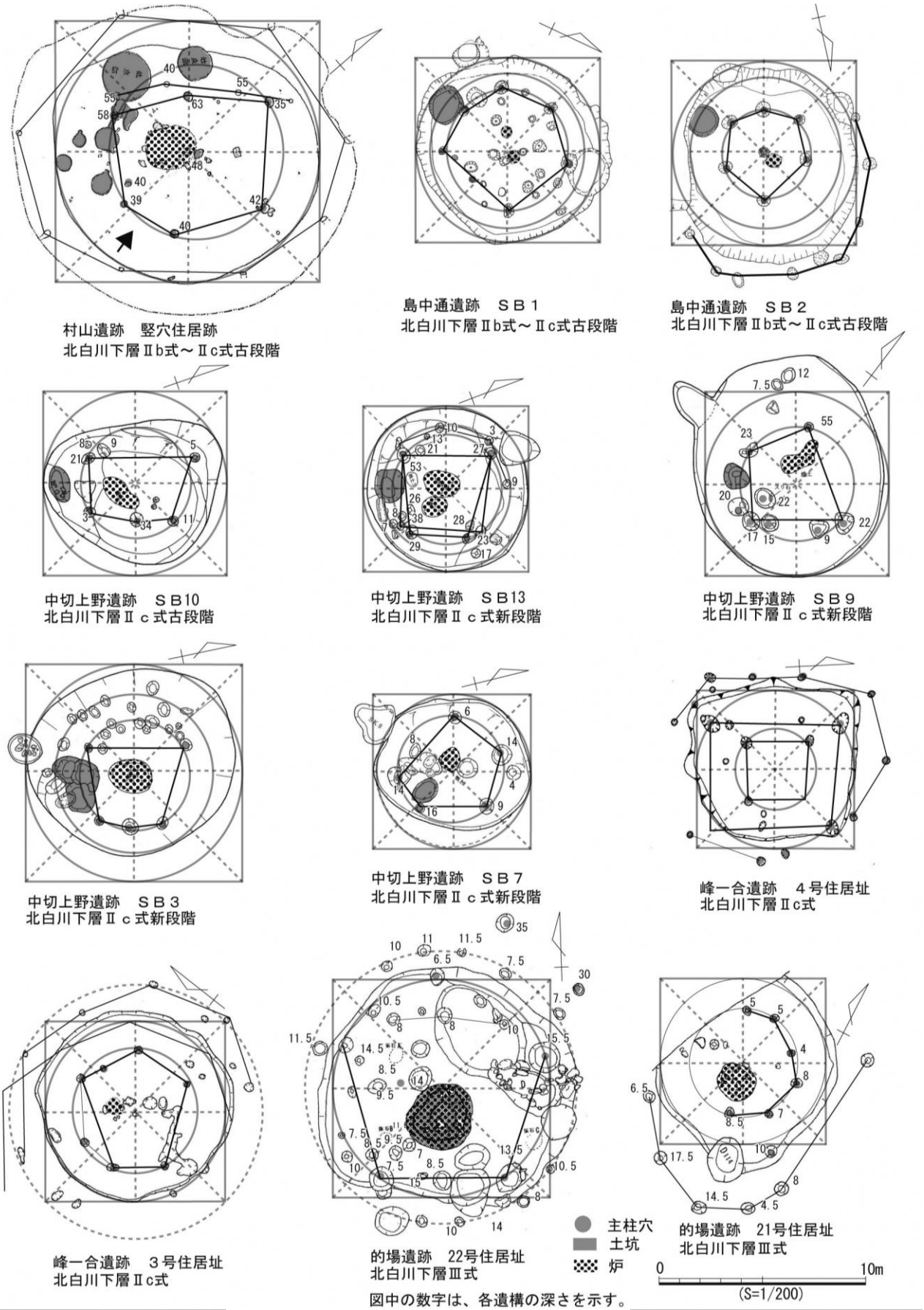

図３　飛騨地域の縄文時代前期後葉の竪穴建物

参考文献

岩田崇 2014「飛騨における縄文時代前期後半に住居跡について」『東海縄文研究会第 11 回研究会（岐阜県）』、東海縄文研究会

佐藤信之 1982「第４章　阿久遺跡をめぐる諸問題」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－原村その５　昭和 51・52・53 年度－』、長野県教育委員会

大石崇史・岩田崇 2003「飛騨の縄文住居」『関西縄文時代の集落と墓地』、六一書房

大石崇史 2012「飛騨の縄文時代の集落」『下呂ふるさと歴史記念館 40 周年記念シンポジウム　縄文・峰一合遺跡の時代の再検討』、下呂市教育委員会・下呂市ふるさと歴史記念館

大石崇史 2016「第１節　縄文時代前期ってどんな時代」「第２節７　八日町森ノ木遺跡」『高山市史先史時代から古代編（上）』、高山市教育委員会

白川村教育委員会 1983『島中通遺跡』

高山市教育委員会 1983『糠塚遺跡』

高山市教育委員会 1983『向畑遺跡』

萩原町教育委員会 1993『的場遺跡』

長田友也 2012「東海地方における峰一合遺跡」『下呂ふるさと歴史記念館 40 周年記念シンポジウム　縄文・峰一合遺跡の時代の再検討』、下呂市教育委員会・下呂市ふるさと歴史記念館

春日井恒・長谷川幸志 2003「岐阜県美濃地方における縄文時代建物遺構の変遷」『関西縄文時代の集落と墓地』、六一書房

金三津道子 2015「第Ⅳ章１　平岡遺跡の集落構造」『平岡遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査報告書第 65 集、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 2003『尾元遺跡』（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 82 集

塩屋雅夫・大野政雄『村山遺跡』飛騨中央印刷株式会社

高山市教育委員会 1999『中切上野遺跡』

久々野町教育委員会 1997『堂之上遺跡－縄文時代集落の調査記録－』

戸田哲也 2001「岐阜県における縄文時代集落の諸様相」『第１回研究集会基礎資料集　列島における縄文時代集落の諸様相』、縄文時代文化研究会

戸田哲也・綿田弘実・前山精明 2012「北陸・中央高地の縄文集落と生業」『シリーズ縄文集落の多様性Ⅲ　生業・生活』、雄山閣

長崎元広 1980「中部地方における縄文前期の竪穴住居」『信濃』第 31 巻第２号、信濃史学会

国府町教育委員会 1988『宮ノ下遺跡発掘調査報告書』

長谷川豊 1995「飛騨における縄文時代中期後葉の竪穴住居址について」『飛騨と考古学』、飛騨考古学会

堀沢祐一 2003「富山市内の縄文時代竪穴建物について～前期から中期にかけて～」『富山市北押出Ｃ遺跡発掘調査報告書』、富山市教育委員会

森秀典 1990「Ⅳ　調査成果」『吉峰遺跡－第７次発掘調査報告書』立山町文化財調査報告書第 11 集、立山町教育委員会

町田尚実 2013「富山市平岡遺跡の掘立柱建物について－縄文時代前期後半の集落の様相－」『富山考古学研究紀要』第 16 号、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

下呂町教育委員会 2003『峰一合遺跡－縄文時代の集落と下呂石による石器群』

小林達雄編 2008『総覧　縄文土器』、アム・プロモーション

表１　飛騨地域の縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物（１）

No.	遺跡番号	遺跡名	水系	遺構名	規模（m）		平面形	主柱穴		壁柱穴	竪穴外ピット	炉跡	炉数	炉位置	壁際溝	拡張等	住居内土坑	時期
					長軸	短軸		配置	基数									併行土器型式
1	1	島中通	庄川	SB1	5.30	4.80	不整円形	同心円上	5 6	有	無	地床炉 掘り込み有	2	中央2	無	重複	有	北白川下層Ⅱb式 ～Ⅱc式古段階
2	1	島中通	庄川	SB2	5.30	5.30	楕円形	同心円上 線対称	6 ＋中央1	無	有	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱb式 ～Ⅱc式古段階
3	1	島中通	庄川	SB3	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	北白川下層Ⅱb式 ～Ⅱc式古段階
4	2	八日町 森ノ木	宮川	竪穴住居跡 (D4グリッド)	不明	不明	楕円形か	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	前期後葉
5	2	八日町 森ノ木	宮川	竪穴住居跡 (E9グリッド)	2.80	2.50	楕円形か	不明	不明	不明	不明	地床炉	1	不明	不明	不明	不明	前期後葉
6	2	八日町 森ノ木	宮川	竪穴住居跡 (C11グリッド)	3.70	不明	楕円形か	不明	不明	不明	不明	地床炉	1	不明	不明	不明	不明	前期後葉
7	3	宮ノ下	宮川	SB1	(4.30)	3.60	方形	不明	7か	有	不明	地床炉 不明	2	中央1 奥壁寄1	無	無	不明	前期後葉
8	4	村山	宮川	竪穴住居跡	7.40	6.65	円形	同心円上 線対称	6	有	有	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱb式 ～Ⅱc式古段階
9	5	中切上野	宮川	SB2	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	不明	北白川下層Ⅱc式 新段階
10	5	中切上野	宮川	SB3	5.70	5.00	不整円形	同心円上 線対称	5 以上	有	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	建替	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
11	5	中切上野	宮川	SB4	4.70	4.40	円形	同心円上 線対称	5	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	無	北白川下層Ⅱc式 新段階
12	5	中切上野	宮川	SB5	5.30	4.24	楕円形	不明	不明	不明	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
13	5	中切上野	宮川	SB6	(5.00)	(3.50)	楕円形	不規則	4	無	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄 り	無	重複	無	北白川下層Ⅱc式 新段階
14	5	中切上野	宮川	SB7	4.30	3.50	不整円形	同心円上 線対称	5(7)	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
15	5	中切上野	宮川	SB8	3.95	3.90	不整円形	不明	不明	無	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄 り	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
16	5	中切上野	宮川	SB9	5.90	5.10	円形	同心円上	4 以上	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
17	5	中切上野	宮川	SB10	4.65	4.40	不整円形	同心円上 線対称	5	無	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 古段階
18	5	中切上野	宮川	SB11	3.40	2.90	不整円形	同心円上 線対称か	8	無	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	拡張	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
19	5	中切上野	宮川	SB12	5.30	4.10	楕円形	同心円上 線対称	9か	有	無	地床炉 掘り込み無	1	奥壁寄 り	無	建替	無	北白川下層Ⅱc式 新段階
20	5	中切上野	宮川	SB13	4.70	4.30	円形	同心円上 線対称	5(6)	無	無	地床炉 掘り込み無	2	中央2	無	無	有	北白川下層Ⅱc式 新段階
21	5	中切上野	宮川	SB14	4.30	3.60	不整円形	不明	不明	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	無	北白川下層Ⅱc式 新段階
22	5	中切上野	宮川	SB15	4.80	4.10	不整円形	同心円上 か	5以上	無	無	石囲炉円形	1	奥壁寄 り	無	無	有	北白川下層Ⅲ式
23	5	中切上野	宮川	SB16	3.80	3.70	不整円形	不規則	4	無	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄 り	無	無	無	北白川下層Ⅱc式 新段階
24	6	ウバガ平	宮川	SB14	5.68	(2.50)	楕円形か	不明	不明	不明	不明	地床炉 掘り込み有	1	不明	不明	不明	不明	北白川下層Ⅲ式
25	7	向畑	宮川	SB02	4.05	3.00	不整楕円形	不規則	7（5）	無	無	無	0	―	無	無	有	前期後葉
26	7	向畑	宮川	SB05	4.40	3.40	長方形	同心円上	5	有	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄	無	無	有	前期後葉
27	7	向畑	宮川	SB07	3.20	3.20	円形	同心円上 か	不明	有	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	重複	有	前期後葉
28	7	向畑	宮川	SB11	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	前期後葉
29	7	向畑	宮川	SB13	4.85	4.40	円形	不明	不明	不明	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	有	前期後葉
30	8	糠塚	宮川	SB01	4.00	3.50	円形	同心円上	６か	有	無	地床炉 掘り込み有	2	中央2	無	無	有	前期後葉
31	8	糠塚	宮川	SB09	4.50	4.50	円形	同心円上	4	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	無	前期後葉
32	9	堂之上	飛騨川	7号住居址	6.00	不明	不整方形	不明	不明	無	無	不明	不明	不明	あり	重複	不明	羽島下層Ⅱ式
33	9	堂之上	飛騨川	13号住居址	4.70	3.30	不整長方形	不明	不明	無	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	あり 部分	無	有	羽島下層Ⅱ式
34	9	堂之上	飛騨川	15号住居址	4.35	4.10	円形	同心円上	4以上か	無	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	無	北白川下層Ⅱb式
35	9	堂之上	飛騨川	17号住居址	3.20	3.20	円形	中央に１ 本	1	無	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	あり 全周	無	無	羽島下層Ⅱ式
36	9	堂之上	飛騨川	18号住居址	5.65	4.80	方形	同心円上 線対称	4	有	無	地床炉 掘り込み無	1	中央	あり 部分	無	有	羽島下層Ⅱ式
37	9	堂之上	飛騨川	28号住居址	5.22	4.60	不整円形	同心円上	7	有	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	拡張	有	北白川下層Ⅱc式
38	9	堂之上	飛騨川	31号住居址	4.70	4.00	円形	同心円上 線対称	6か	不明	無	地床炉不明	1	中央	無	無	不明	北白川下層Ⅱb式
39	9	堂之上	飛騨川	40号住居址	3.55	3.00	方形	不明	不明	有	無	無	0	-	無	無	無	羽島下層Ⅱ式

表２　飛騨地域の縄文時代前期中葉から後葉の竪穴建物（２）

No.	遺跡番号	遺跡名	水系	遺構名	規模（m）		平面形	主柱穴		壁柱穴	竪穴外ピット	炉跡	炉数	炉位置	壁際溝	拡張等	住居内土坑	時期
					長軸	短軸		配置	基数									併行土器型式
40	9	堂之上	飛騨川	43号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	不明	羽島下層Ⅱ式
41	10	的場	飛騨川	5号住居址	5.72	4.07	不整形	同心円上か	3	有	無	不明	不明	不明	無	無	無	前期後葉
42	10	的場	飛騨川	6号住居址	5.90	(3.50)	不整方形	不明	不明	無	無	不明	不明	不明	無	不明	不明	前期後葉
43	10	的場	飛騨川	7号住居址	4.50	(2.00)	楕円形	同心円上か	不明	無	無	石囲炉方形	1	中央	無	不明	有	前期後葉
44	10	的場	飛騨川	9号住居址	4.50	4.00	方形	同心円上か 線対称か	６か	有	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄り	無	無	有	前期後葉
45	10	的場	飛騨川	10号住居址	4.80	不明	方形か	不明	不明	有	無	不明	不明	不明	無	無	有	前期後葉
46	10	的場	飛騨川	12号住居址	2.40	(1.20)	不明	不明	不明	無	有	不明	不明	不明	無	無	不明	前期後葉
47	10	的場	飛騨川	13号住居址	4.00	(4.00)	不整方形	不明	不明	有	無	無	0	－	無	無	無	前期後葉
48	10	的場	飛騨川	14号住居址	4.60	(3.80)	不明	不明	不明	不明	不明	無	0	－	無	無	無	北白川下層Ⅱb式
49	10	的場	飛騨川	15号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	前期後葉
50	10	的場	飛騨川	16号住居址	4.95	4.35	不整円形	同心円上か 線対称か	5	無	無	地床炉 掘り込み有	1	奥壁寄り	無	無	有	前期後葉
51	10	的場	飛騨川	18号住居址	5.00	4.60	不整円形	不明	不明	有	有	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	有	前期後葉
52	10	的場	飛騨川	19号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	有	無	不明	－	不明	不明	無	不明	前期後葉～中期初頭
53	10	的場	飛騨川	20号住居址	不明	不明	方形か	不明	不明	有	無	無	0	－	無		不明	前期後葉
54	10	的場	飛騨川	21号住居址	5.40	(4.10)	円形か	同心円上	6以上	有	有	地床炉掘り 込み有か	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅲ式
55	10	的場	飛騨川	22号住居址	6.80	6.20	不整方形	同心円上か 線対称か	4以上	有	有	地床炉掘り 込み有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅲ式
56	10	的場	飛騨川	23号住居址	5.45	4.50	不整楕円形	同心円上	６か	有	有	埋甕炉	1	中央	無	無	有	前期末葉
57	10	的場	飛騨川	24号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	前期後葉
58	10	的場	飛騨川	26号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		不明	前期後葉
59	10	的場	飛騨川	27号住居址	不明	不明	不明	同心円上か 線対称か	5	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	前期末葉
60	11	峰一合	飛騨川	1号住居址	5.30	4.00	不整楕円形	不規則	7	有	有	地床炉 掘り込み無	1	中央	無	無	有	前期後葉
61	11	峰一合	飛騨川	2号住居址	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	地床炉 掘り込み無	1	中央	不明	不明	不明	北白川下層Ⅱc式
62	11	峰一合	飛騨川	3号住居址	5.40	5.30	円形	同心円上	5(6)	無	有	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	無	不明	北白川下層Ⅱc式
63	11	峰一合	飛騨川	4号住居址	4.50	4.30	不整方形	同心円上 線対称	4	無	有	無	0	－	無	無	無	北白川下層Ⅱc式
64	12	下切	飛騨川	SI4	2.74	2.53	不整円形	同心円上	6	有	無	地床炉 掘り込み有	1	中央	無	不明	有	北白川下層Ⅲ式
65	12	下切	飛騨川	SI5	3.31	2.85	不整方形	不規則	5か	無	無	無	0	－	無	無	不明	北白川下層Ⅲ式
66	12	下切	飛騨川	SI8	4.17	3.50	楕円形	同心円上 線対称	6	有	無	有	1	中央	無	無	有	北白川下層Ⅱc式
67	12	下切	飛騨川	SI11	3.16	(1.35)	方形か	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	有	北白川下層Ⅱc式

短軸と長軸の長さの比から円形：正方形（1:1.2未満）、楕円形・長方形(1:1.2以上）、長楕円形(1:1.5以上）とし、形状があまり整っていない場合は不整円形、不整長方形などとした。他に調査区外に続く、あるいはほかの遺構に削平され形状が明確でないものについて不明とした。